

[2010年11月23日号 - ニュース](#)

太陽無黒点期の磁場活動の影響解明

大気海洋研究所の山口保彦さん(理学系・博士1年)、横山祐典准教授(理学系研究科)らのグループは、17～18世紀に70年間続いた太陽の黒点が無くなる期間(マウンダー極小期)に、太陽の磁場活動が周期的に極端に弱くなり、北半球の気候に影響を与えていたことを発見した。気候システムの変動メカニズムの解明に貢献すると期待される。名古屋大学、名古屋工業大学と共同で研究した成果で、米国科学アカデミー紀要オンライン版に掲載された。
